

今後の高等学校生徒募集定員における公私比率等について（案）

「高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会」は、三重県の高等学校募集定員総数が近い将来に大きく減少することが予測される中、高校教育における公立と私立の役割を踏まえた中長期的な公立・私立の募集定員比率等のあり方について検討しました。

ここに、その結果を、三重県公立高等学校協議会（以下、「公私協」といいます。）に提言します。

1 高等学校生徒募集定員の策定

本県の高等学校の生徒募集定員は、公私協の場で、前年度および近年の中学校卒業者の進路状況の検証や、公立・私立高校の教育上の諸課題についての検討を行いながら、県民からの理解が得られるよう、年度ごとに策定されてきました。

全日制高等学校の生徒募集定員総数は、高校への進学を希望する中学生等の進路を保障するという観点を重んじながら、公立・私立双方が年度ごとにそれぞれの募集定員案を持ち寄って検討を行い、生徒の学校選択の幅がより広がるよう重なり部分を設けつつ、策定されています。

その結果、平成26年度の募集定員は県立高校が13,065人、私立高校が3,715人で、公私比率は78.0:22.2（重なり0.1%）※となりました。

年度ごとに中学校卒業生数に変動するなか、生徒募集定員は、今後もこれまでと同様に、将来的な公私比率等をあらかじめ設定するのではなく、公私協の場で年度ごとに協議を行い策定することが必要です。

※平成26年度の県内高校への入学見込者数 16,756人

県立高校の募集定員の比率 $13,065人 \div 16,756人 = 77.97\%$

私立高校の募集定員の比率 $3,715人 \div 16,756人 = 22.17\%$

重なる人数・比率 $(13,065人 + 3,715人) - 16,756人 = 24人$

$24人 \div 16,756人 = 0.14\%$

2 県立高校と私立高校の役割と今後の公私比率等のあり方

県立高校と私立高校は、ともに公教育を担い、生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応えるため、双方がその役割を果たしています。具体的には、県立高校は県が県内の広域にわたり学校を設置し、教育サービスを保護者負担の面で受けやすくすること等により教育を受ける機会を保障するとともに、普通科のほかに専門学科や総合学科を設置するなど、多様な選択を可能にしています。一方で私立高校は、国・地方公共団体以外の者が設置し、設置者独自の建学の精神に基づき、県立高校にはない特色ある教育活動を展開したり、併設中学校と中高一貫教育を実施したりするなど、個性豊かな

教育活動を展開しています。

本県の中学校卒業生数は、今後大きく減少することが見込まれており、それに伴い高等学校生徒募集定員も減じていかなければならない状況にあります。県立高校については、学校の統廃合を含めた適正規模・適正配置の推進に取り組む必要があり、私立高校については、生徒減少を見越した経営改善に取り組む必要があります。このような状況のなか、県立高校と私立高校は、互いに切磋琢磨し、また協力し、一層の特色化・魅力化を図っていくことが求められます。

このことから、今後の生徒募集定員の公私比率等については、将来的な比率を確定的に定めるものではないものの、中長期的な方向性を明らかにする必要があります。その際、県立高校と私立高校の設置状況や中学校卒業生の増減および進学状況等が地域によって異なることから、地域ごとに方向性を明らかにする必要があります。

なお、5年後（平成30年度）を目途に、公私比率の推移等について、多様な選択肢の維持や特色化・魅力化の推進が図られているか等の観点から検証を行うとともに、必要に応じてその後のあり方を改めて検討します。

3 県内各地域における公私比率等の中長期的な方向性

(1) 桑名・四日市地域、鈴鹿・津地域

桑名・四日市地域には全日制の県立高校が16校、私立高校が4校あり、鈴鹿・津地域には全日制の県立高校が14校、私立高校が3校あります。これらの地域をあわせると、公私比率は77.6:22.4（平成26年度募集定員）であり、県全体の比率と大きく変わりません。入学状況をみると、私立高校で比較的大きな欠員が生じています。中学校卒業生数はここ数年増減を繰り返してきており、募集定員が増加した学校もありましたが、今後は減少傾向にあり、中長期的には募集定員の減少が進むと考えられます。その際、当面は現状の学校数のまま、一部の学校の募集定員が減じられることが考えられます。なお、県内の私立高校11校のうち7校がこれらの地域に配置されており、県立高校にはない特色ある教育活動が展開されています。

こうしたことを踏まえ、これらの地域の今後の募集定員は、少子化の進行状況、中学生等の進路希望状況等を十分に考慮しながら、引き続き中学生等の進路を保障するという観点を重視して、策定される必要があります。その結果として、募集定員の公私比率は現在よりも県立高校がやや低くなり、私立高校がやや高くなるが見込まれ、その中で、学校の一層の特色化・魅力化が図られるよう公私双方が努めていく必要があります。

(2) 松阪地域

この地域には全日制の県立高校が6校、私立高校が1校あります。公私比率は68.2:31.8（平成26年度募集定員）であり、県全体の比率よりも、公立が低く、私立が高くなっています。入学状況をみると、公私ともに大きな欠員は生じていません。今後の中学校卒業生数は、県内の他の地域と異なり、減少幅が比較的小さいと予測されています。

こうしたことを踏まえ、これらの地域の今後の募集定員は、中学生等の進路希望状況等を十分に考慮しながら、引き続き中学生等の進路を保障するという観点を重視し

て策定される必要があります。その結果として、募集定員の公私比率は現在と大きく変わらないことが見込まれ、その中で、学校の一層の特色化・魅力化が図られるよう公私双方が努めていく必要があります。

(3) 伊勢地域

この地域には全日制の県立高校が9校、私立高校が2校あります。公私比率は74.7:25.3(平成26年度募集定員)であり、県全体の比率よりも、公立がやや低く、私立がやや高くなっています。入学状況を見ると、県立高校で多くの欠員が生じています。今後は、中学校卒業者の大幅な減少が予測されており、中長期的には募集定員の減少が大きく進むと考えられることから、県立高校の適正規模・適正配置の推進について、地域社会活性化の視点も踏まえながら検討が進められています。

こうしたことを踏まえ、これらの地域の今後の募集定員は、少子化の進行状況、中学生等の進路希望状況等を十分に考慮しながら、引き続き中学生等の進路を保障するという観点を重視して策定される必要があります。その結果として、募集定員の公私比率は現在と大きく変わらないことが見込まれ、その中で、学校の一層の特色化・魅力化や学ぶ環境の整備が図られるよう、双方が努めていく必要があります。

(4) 伊賀地域、尾鷲・熊野地域

伊賀地域には全日制の県立高校が6校、私立高校が1校あり、公私比率は87.9:12.1(平成26年度募集定員)です。尾鷲・熊野地域には、県立高校が3校で、私立高校はありません。入学状況をみると、県立高校(伊賀地域、尾鷲・熊野地域)と私立高校(伊賀地域)ともに、欠員が生じています。これらの地域では、県立高校が高校教育の中の大きな部分を担っていることから、1校の中に普通科と専門学科を設置したり、普通科を総合学科に改編したりすること等により、高校教育の多様な選択肢を保障してきました。今後は、中学校卒業者の大幅な減少が予測されており、中長期的には募集定員の減少が進むと考えられることから、伊賀地域と熊野地域では高校の統廃合を含めた適正規模・適正配置の推進について、地域社会活性化の視点も踏まえながら検討が進められています。

こうしたことを踏まえ、これらの地域の今後の募集定員は、少子化の進行状況、中学生等の進路希望状況等を十分に考慮しながら、引き続き中学生等の進路を保障するという観点を重視して策定される必要があります。募集定員の公私比率は公立が高い比率(伊賀地域)またはすべて(尾鷲・熊野地域)を占めている現状があることから、今後も大きく変わらないことが見込まれます。その中で、主に県立高校が、学校の一層の特色化・魅力化や学ぶ環境の整備が図られるよう、努めていく必要があります。

4 公私双方による高校教育充実のための取組

県立高校と私立高校は、今後ともに、高校教育の多様な選択肢をできる限り維持し、学校の一層の特色化・魅力化をさらに進める必要があります。そのために、募集定員の策定、高校入学者選抜がより適切な制度および運用となるための検討に加え、教育上の諸課題の共有、教育内容の改善等について、引き続き公私協の場で協議を進めることが必要です。

<参考1>

平成26年度募集定員（全日制）における各地域別の学校数・募集定員・公私比率など

●桑名・四日市地域

学校数 県立高校 16校：私立高校 4校

募集定員 県立高校 4,600人：私立高校 1,220人＝79.0：21.0

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校2校2人：私立高校3校253人

●鈴鹿・津地域

学校数 県立高校 14校：私立高校 3校

募集定員 県立高校 3,760人：私立高校 1,200人＝75.8：24.2

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校3校11人：私立高校2校64人

●松阪地域

学校数 県立高校 6校：私立高校 1校

募集定員 県立高校 1,200人：私立高校 560人＝68.2：31.8

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校2校19人

●伊勢地域

学校数 県立高校 9校：私立高校 2校

募集定員 県立高校 1,665人：私立高校 565人＝74.7：25.3

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校5校101人

●伊賀地域

学校数 県立高校 6校：私立高校 1校

募集定員 県立高校 1,240人：私立高校 170人＝87.9：12.1

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校2校29人：私立高校1校78人

●尾鷲・熊野地域

学校数 県立高校 3校：私立高校 0校

募集定員 県立高校 600人：私立高校 0人＝100.0：0.0

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校3校49人

●県全体

学校数 県立高校 54校：私立高校 11校

募集定員 県立高校13,065人：私立高校 3,715人＝77.9：22.1（※）

欠員のある高校数と人数（H25選抜） 県立高校17校211人：私立高校6校395人

※ 平成26年度の県内高校への入学見込者数である16,756人に対する公私比率は、公：私＝78.0：22.2（重なり0.1%）となる。

※ 愛農学園農業高校・日生学園第二高校・ウィッツ青山学園高校を含まない。

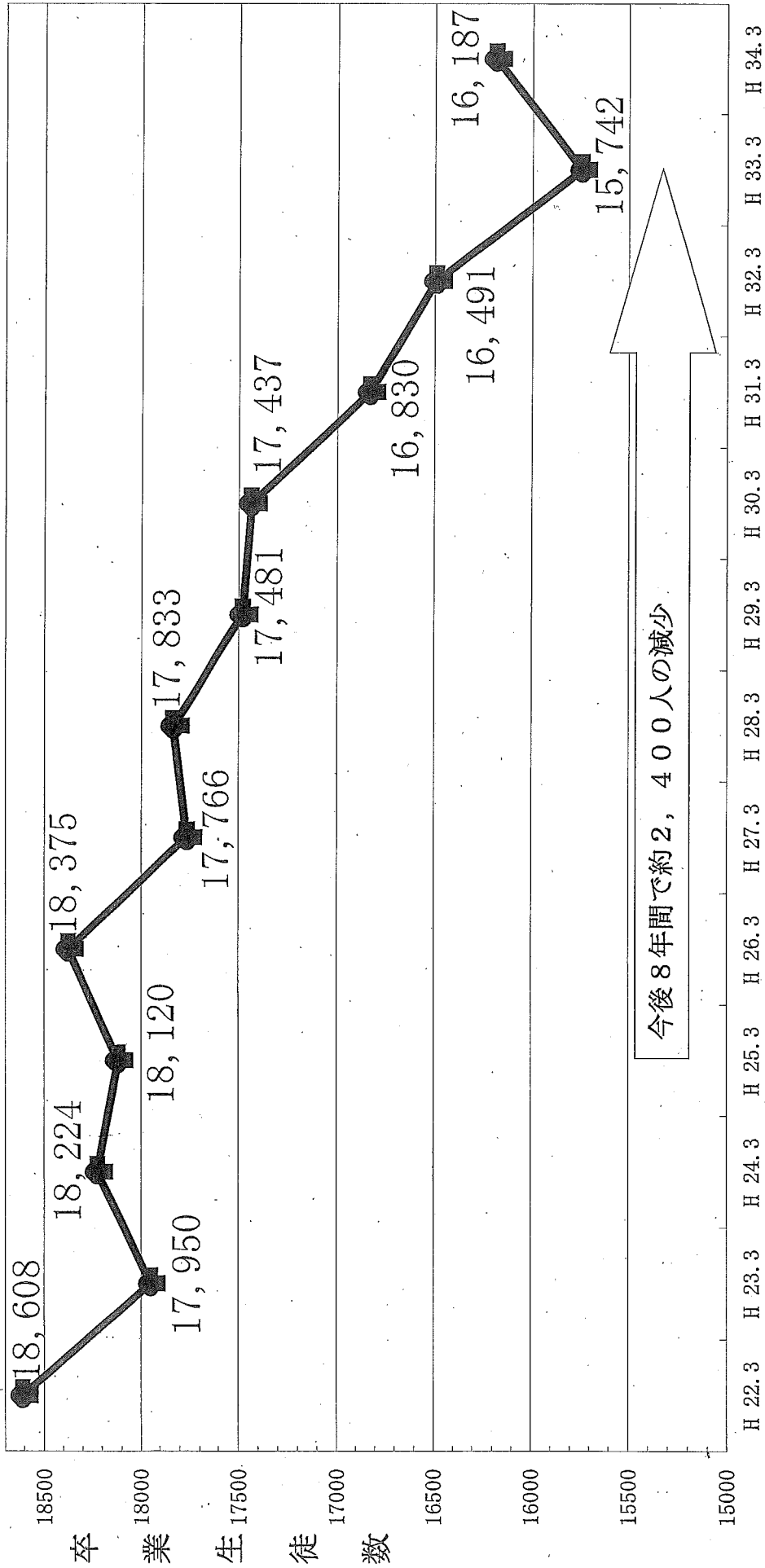
この3校を含んだ募集定員の公私比率は、公：私＝76.8：23.2（H24文科省統計）となる。

三重県中学校卒業者の推移と予測(含社会増)

<参考2①>

平成25年5月1日調査

教育総務課調べ

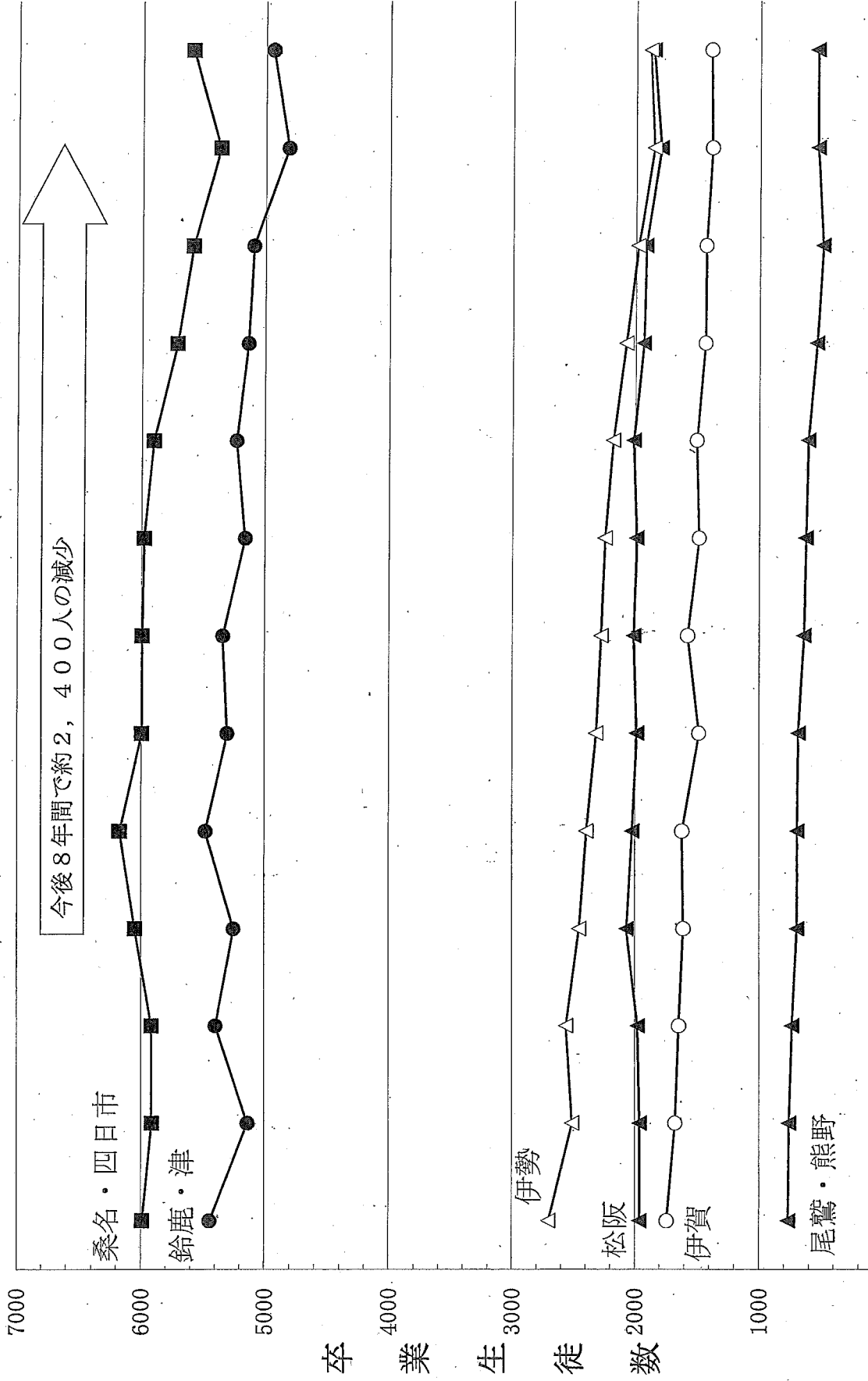


三重県中学校卒業者の推移と予測(含社会増・地域別)

平成25年5月1日調査

<参考2②>

教育総務課調べ



	H 22.3	H 23.3	H 24.3	H 25.3	H 26.3	H 27.3	H 28.3	H 29.3	H 30.3	H 31.3	H 32.3	H 33.3	H 34.3
桑名・四日市	5991	5913	5915	6051	6173	5996	5994	5981	5904	5714	5686	5669	5659
鈴鹿・津	5443	5135	5397	5250	5478	5302	5340	5159	5230	5136	5094	4816	4940
伊賀	1742	1673	1643	1807	1618	1483	1574	1483	1903	1484	1423	1380	1387
松阪	1962	1962	1977	2066	2021	1986	2012	1968	2014	1934	1916	1797	1855
伊勢	2704	2908	2658	2462	2394	2316	2276	2246	2181	2075	1990	1850	1882
尾鷲・熊野	766	759	734	694	691	683	637	624	605	537	467	530	533